

虹の架橋

Instagram account * uzumaki_ho



今月の題字
保坂美枝さん

(大間々町桐原)

大間々の美しさを保坂さんのInstagramの写真で再認識しました。
「三方良し」の会の新メンバーとして町の魅力を一緒に発信していきます。

虹の架橋

検索

で、インターネットからでもご覧いただけます。

第六十回関東菊花大会

十月二十四日からながめ公園で昭和三十二年、大間々駅前及び町内で第一回大会を開催した関東菊花大会は、今年で六十回目を迎えることとなります。
(十一月二十三日迄、午前九時〜午後四時)
昭和四十年代には全国から菊づくりの名人が大輪の菊を持ち寄り、大間々駅前「全日本菊花大会」を開催したこともありました。
六十回目となる今年には、日本一を獲得した菊作り名人の菊花を展示するほか、菊花寄席、観光物産まつり(十一月三日〜五日)、「映画・中村勘三郎」の上映



菊の見頃は10月下旬からです

ながめ亭菊花寄席

関東菊花大会開催中の十月二十九日、十一月三日、四日、五日、十一日、十二日、十八日、十九日の十二時半と十四時からの二回、ながめ亭菊場場で「ながめ亭菊花寄席」を開催します。若手噺家の登竜門とも言われる菊花寄席で本格的な落語をお楽しみ下さい。
ながめ亭菊場は昭和十二年に造られた木造の芝居小屋で今年に創建八十年、改修二十年を迎えました。大間々の歴史と文化のシンボルとして、ながめ黒子の会のメンバーと市民が中心となって芝居小屋の活用を支えています。



アンダースタンド

小耳にはさんだ



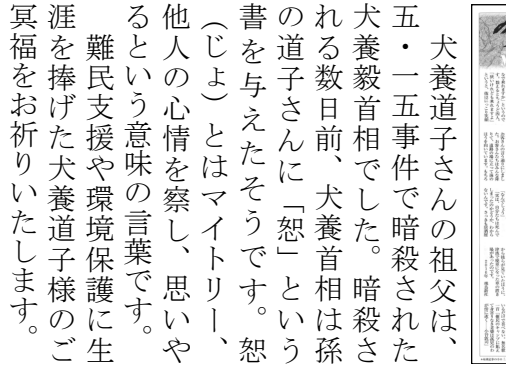
いい話 (文責・菊) 《266》

東京大井に住む斎藤吉孝さんは「みちくさ新聞」というひとり新聞を毎月一日に無料発行して全国読者の人々と交流しています。個人新聞を発行する者同士として斎藤さんとお付き合いは二十年近く続いています。先日届いたみちくさ新聞二四七号に、今年七月に九六歳でお亡くなりになった犬養道子さんのことが載っていました。犬養道子さんは、カンボジアやアフリカなどの難民支援や環境保護に尽力した方でした。

犬養道子さんは晩年は老人ホームで暮らしていました。犬養さんを介護している若い人たちはいつもニコニコしていて、やっあってあげてるといって感じがしなかったそうです。難民支援もそこが大事だと言っています。「人間同士はつねに対等、あわれまれて喜ぶ人はいない。私は『アンダースタンド』という言葉が好きなんですけど、これを『理解する』なんて訳したのはいけません。『下に立つ』と素直に訳したらよかったです。人間というものは、やはりどこかで自

分は偉い、自分が正しいと思っ込んでいるもの。意識して、努力して人の下に立つぐらいでちょうどいい。それで「対等」と言っています。犬養さんは幼い頃、年末になるとお母さんに連れられ、おみやげを持って近くの孤児院を訪ねていたそうです。おみやげは、犬養さんが大事にしていて人形やおもちやでした。子供心に「どうして!」と思っただけです。その時お母様が、「自分のいらないものを人さまにあげても、差し上げたことにはならないのよ。人の役に立ちたいと思うなら、自分も少しは痛い目にあわないと」と諭してくれました。

犬養道子さんの祖父は、五・一五事件で暗殺された犬養毅首相でした。暗殺される数日前、犬養首相は孫の道子さんに「恕」という書を与えたそうです。恕(じよ)とはマイトリ、他人の心情を察し、思いやりという意味の言葉です。難民支援や環境保護に生涯を捧げた犬養道子様のご冥福をお祈りいたします。



あるじなき犬小屋の屋根金木犀
愛犬プーちゃんが死んで八ヶ月になるうとして、プーちゃんが暮らしていた犬小屋を片づけられずにそのままになっています。犬小屋の横には金木犀の木があります。プーちゃんが元気な頃、夏は金木犀が日陰をつくり、秋は甘い香りと金色の絨毯が犬小屋を包み、冬は風よけになりました。今年も金木犀が咲き、その香りはプーちゃんに感じられます。の香りのように感じられます。私たち家族だけではなく、金木犀もプーちゃんと仲の良い友達だったのか嬉しくなりました。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の写真《266》 境野新太郎さん『陽光の門』



写真愛好家グループ「フォーカス99」の写真展が今年もさくらもーるで開かれました。四十点の写真の中で特に印象に残ったのが、足利屋の近所に住む境野新太郎さんの『陽光の門』と題した写真でした。今年の一月十一日の七時四十分、ながめ公園北門の真ん中に朝日が差しこむ瞬間を捉えた写真です。境野さんは、北門に何度も足を運び、この日の朝は寒い中、この瞬間をじっと待ち続けていたそうです。写真のこちら側で、美しい瞬間を根気よく待つ境野さんの姿が見えるような作品です。

靖ちゃん日記

九月二日(土)
日本を美しくする会の全国大会が新宿のホテルで開かれた。五十年前、イエローハット創業者の鎌山秀三郎さんがたつたひこりではじめたトイレ掃除の実践が日本を美しくする心磨きの活動として全国に広がり、海外にも広がった。大間々から仲間六人で参加。鎌山さんの挨拶を聴いているうちに目頭が熱くなった。今日の参加者は四百名。宮城、静岡、岐阜、兵庫、広島、香川、鹿児島から集った掃除仲間と嬉しい再会を果たした。足利屋で納めた記念Tシャツが会場入口で売られていた。鮮やかなTシャツがブルーのTシャツを美女たちが全員着て販売、七百枚を全て完売した。明朝は築地市場の三十か所のトイレも八百人で掃除をする。Tシャツの胸のプリントは掃除で使うスポンジのイラストに「凡事徹底」という文字が小さく入っている。美女たちが着ている柔らかそうな胸のスポンジをチョツと触ってみたくなった。

第二六七号は十一月一日(水)発行予定です。

靖ちゃんの似顔絵提供: ひさかさん